



令和4年10月27日
佛教大学附属幼稚園

「仏教保育 11月のねらい」
精進努力

園長 佐藤和順

「自分に勝つ」

日中は暖かく穏やかで、空は澄み渡り秋を感じる好季節となりました。園外保育を通して、どんぐりを拾ったり、自然に触れたり子どもたちはそれぞれの秋を楽しんでいます。

今月の保育の目標は「精進努力（しょうじんどりよく）最後までやりとげよう」です。精進とは精魂込めて物事に取り組むこと。つまり精進努力とは、心を込めて一生懸命努力することです。途中でくじけては、どんな小さなことも実りません。すべてを終わりまで粘り強くやりとげることを、子どものときから習慣づけることが大切だということです。

10月に行われた運動会。保護者の皆さまのご理解、ご協力により無事終わることができました。年長組によるチーム対抗リレー、そしてかけっこなどは、勝負がわかりやすい種目です。そのため、練習すればするほど、勝利した際の嬉しい思い、負けてしまった際の悔しい思いも強くなるようです。中には負けて、涙が出てしまう子どももいました。

運動会では子どもたちに次のことを伝えました。「自分の弱い気持ちに勝った人が一番偉い！他の人との競争に勝つのはカッコいいし、気分がいいかもしれない。でも、誰にも勝てなくても、気にすることはない。精一杯がんばっても勝てなかったら、仕方がない。本当に大事なものは、すぐあきらめたり、くじけたりしないで、心の中の「弱い自分」に勝つこと。」

子どもたちは今後、成長していく過程で様々なことに挑戦をしていくことでしょう。時にはうまくいかず、失敗をしてしまうこともあるかと思いますが。失敗をすることで「次はどうすればいいのだろうか？」と考え、学ぶ。このことが大切です。園では結果だけではなく、目標に向かう過程を大切にしたいと考えています。また、どもたちが悩んでいる時にはすぐに手を貸すのではなく、見守り励まし、一緒に考えながら子どもの主体性を大切にしよう心がけています。出来ないから、失敗するからといって諦めてしまうのは簡単です。失敗しながらも目標に向かって最後までやり遂げることにより、達成感、満足感を味わうことができ、心も強くなっていくことでしょう。

私たち大人も難しいから、無理だから…と諦めていることはないでしょうか。大人である私たちも最後までやり遂げる姿、継続して取り組む姿を見ることができたら素晴らしいなと思います。読書の秋、スポーツの秋、食欲の秋。秋はいろいろなことに取り組む好季節。自分なりの目標を掲げて日々精進努力したいものです。

